

家庭簿記（家庭用複式簿記）

1、家庭簿記とは

「家庭簿記」（家庭用複式簿記）とは、家庭の財産対照表の項目（資産、負債、正味財産）の増減と消費損益計算書の項目（収入、消費）の発生、消滅について記録、集計する複式簿記の記帳システムのことを言います。

複式簿記の考え方は、15世紀末にイタリアの数学者ルカ・パチョーリによって著作にまとめられてから、すでに500年以上経過しています。商業の発達に伴って複式簿記は広く認識され、ドイツの文豪ゲーテも、名作『ヴィルヘルム・マイスターの修行時代』の中で、「複式簿記が商人に与えてくれる利益は計り知れないほどだ。人間の精神が生んだ最高の発明のひとつだね。立派な経営者は誰でも、経営に複式簿記を取り入れるべきなんだ」（山崎章甫訳 上.P54 岩波文庫）とその有用性を述べた場面はよく知られています。

この複式簿記の知恵を活かし、現在のような複雑な経済社会において、家庭におけるお金やものの出入りを記録するための方法として家庭簿記（家庭用複式簿記）が考えられました。

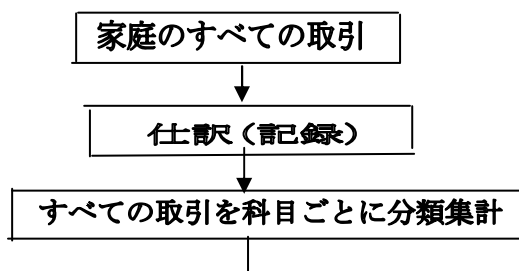
では何のためにお金やものの出入りを家庭簿記（家庭用複式簿記）で記録するのかというと、家庭の財産の状況や消費損益を系統的に明らかにするためです。家庭の財産の状況や消費損益が把握できれば、財産が増えたのか減ったのかが明らかになり、もっと財産を増やすためには、どこをどう工夫すれば良いのか、その計画を立てることが可能になります。

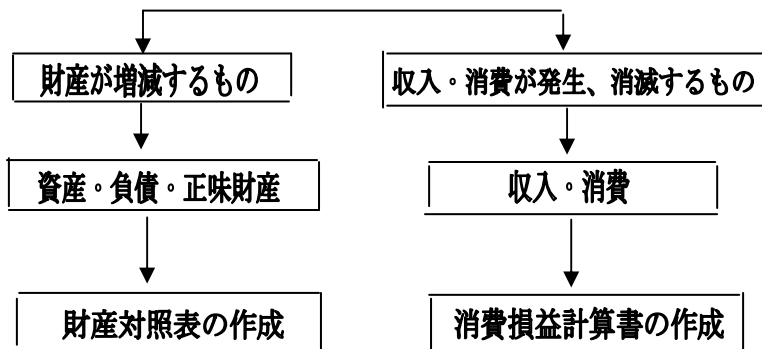
そこで、家庭の財産の状況や消費損益を明らかにするために、家庭決算書を1年に1度、決算をして作ります。

家庭決算書は、2つの表からできています。1つは財産対照表で、もう1つは消費損益計算書です。財産対照表は家庭の財産の状況を明らかにし、消費損益計算書は消費損益を明らかにします。

家庭簿記（家庭用複式簿記）は、この2つの表（家庭決算書）を作るためのツール（技術）なのです。

家庭簿記で作る家庭決算書





2、家庭簿記（家庭用複式簿記）の2つのルール

家庭簿記（家庭用複式簿記）では、勘定科目を各口座勘定に記入する前に、資産、負債、正味財産、収入、消費という5つの勘定とそれに属する勘定科目を、取引ごとに左側と右側に分けて金額を決定することを「仕訳」と言います。

また、家庭簿記では、取引を仕訳するに当たり、左側を「**左方（ひだりかた）**」、右側を「**右方（みぎかた）**」という用語を使います。

「仕訳」をする場合、勘定科目には2つのルールがあります。

それは、勘定科目の

1. 「左右グループ分け」のルール
 2. 「増加」・「減少」の仕訳のルール
- という2つのルールです。

（1）「左右グループ分け」のルール

家庭簿記では、勘定科目を「左方（ひだりかた）」と「右方（みぎかた）」に分けて、次のようにグループ分けをします。

勘定科目の左右グループ分け

左 方（ひだりかた） グループ	右 方（みぎかた） グループ
「資 産」グループ	「負 債」グループ 「正味財産」グループ
「消 費」グループ	「収 入」グループ

(グループの内訳)

- ・左 方 (ひだりかた) グループ

「資 産」グループ・・・現金、普通預金、土地、建物、有価証券など

「消 費」グループ・・・税金等、日常生活費、その他生活費、特別消費

- ・右 方 (みぎかた) グループ

「負 債」グループ・・・住宅ローン、その他借入金、カード未払金など

「正味財産」グループ・・・家族財産、留保財産、当期消費損益

「収 入」グループ・・・給料、賞与、家族収入、特別収入など

(2) 「増加」・「減少」の仕訳のルール

各グループの勘定科目の金額が「増加」した場合と「減少」した場合の仕訳は、次のようになります。

①「左方 (ひだりかた)」グループの仕訳

「左方 (ひだりかた)」グループ (資産グループと消費グループ) は、勘定科目の金額が増加した場合には「左方 (ひだりかた)」に、減少した場合には「右方 (みぎかた)」に仕訳されます。

「左方 (ひだりかた)」 グループ	勘定科目の金額	
	増加した場合	減少した場合
資産グループ	左 方 (ひだりかた)	右 方 (みぎかた)
消費グループ		

②「右方 (みぎかた)」グループの仕訳

「右方 (みぎかた)」グループ (負債グループ、正味財産グループと収入グループ) は、勘定科目の金額が増加した場合には「右方 (みぎかた)」に、減少した場合には「左方 (ひだりかた)」に仕訳されます。

「右方 (みぎかた)」 グループ	勘定科目の金額	
	増加した場合	減少した場合
負債グループ	右 方 (みぎかた)	左 方 (ひだりかた)
正味財産グループ		
収入グループ		

3、取引事例

複式簿記の特徴は、1つの取引を2面的にとらえて、記録する点にあります。

例えばスーパーへ行って野菜を買い、現金300円を支払ったとします。

この取引は、次の2つの面からとらえることができます。

(1) 野菜(食料費)が300円増加した

(2) 現金300円が減少した

家庭簿記(家庭用複式簿記)では、この取引を

(1) 消費グループの食料費が・・・増加した

(2) 資産グループの現金が・・・減少した

として

左 方 (ひだりかた)	右 方 (みぎかた)
食 料 費 3 0 0 円	/ 現 金 3 0 0 円

と仕訳します。

(例1)

コンビニでジュースを購入し、105円を現金で支払った。

(1) 消費グループの食料費が・・・増加した

(2) 資産グループの現金が・・・減少した

この結果、仕訳は、次のようになります。

左 方 (ひだりかた)	右 方 (みぎかた)
食料費 1 0 5 円	/ 現金 1 0 5 円

(例2)

レストランで食事をして、5,000円をクレジットカードで支払った。

この場合

(1) 消費グループの外出費が・・・増加した

(2) 負債グループのカード未払金が・・・増加した

この結果、仕訳は、次のようになります。

左 方 (ひだりかた)	右 方 (みぎかた)
外出費 5, 0 0 0 円	/ カード未払金 5, 0 0 0 円